

## 日本医学会分科会活動報告

特定非営利活動法人日本呼吸器内視鏡学会  
理事長 川村 雅文

貴学会の日本医学会分科会としての過去5年間の活動の自己点検について記載してください。

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

1. 日本呼吸器内視鏡学会では、我が国における安全で標準的な気管支鏡検査手技の確立と普及を目的としている。この目的の達成のために、現在は学術委員会内に気管支鏡所見分類小委員会、クライオ生検指針作成ワーキンググループ、喀血ガイドラインワーキンググループを、またこれに加えて透明性の担保された専門医制度の維持も見据えて気管支鏡レジストリー委員会を設置している。これらの活動を通じて、全国で安全で標準的な気管支鏡検査が行なわれることを目指している。

2. 日本呼吸器内視鏡学会では、我が国で開発され今なお進化を続ける気管支鏡を中心とした呼吸器内視鏡検査が、全国で安全にかつ一定の水準以上で施行されるためには専門医制度の制定が必須であると考え。このため気管支鏡専門医制度委員会を設け、その下に指導医認定小委員会、施設認定小委員会、専門医認定小委員会、専門医試験小委員会を置いて適正かつ公正な気管支鏡専門医制度を円滑に運用している。また近年基幹学会の専門医が学会から日本専門医機構に移管しつつあることを鑑み、気管支鏡専門医制度も時期が来れば専門医機構に遅滞なく移管できるよう体制を整えている。

3. 日本呼吸器内視鏡学会の安全対策委員会では、我が国での呼吸器内視鏡検査の実施状況を把握するために、定期的に全国調査を行い、安全で標準的な検査手技が行われているか、検証を続けてきた。この結果は学術集会と学術雑誌で報告している。現在この制度をさらに正確で網羅的なものとするために、レジストリー委員会と共同してすべての呼吸器内視鏡検査のレジストリー制度の確立を目指している。

4. 日本呼吸器内視鏡学会では上記の情報の提供と、会員の経験などの情報を広く交換する場として、年一回の学術集会、各支部における支部集会を主催している。そのほかに、標準的な手技の普及のために、年一回の気管支鏡セミナー、年一回のハンズオンセミナー、年一回の気管支鏡専門医大会、年一回の呼吸器インターベンションセミナー、年一回の呼吸器インターベンション実技セミナーを主催している。

5. 日本呼吸器内視鏡学会では、安全で標準的な検査手技を普及することを目的として、気管支鏡テキストを発刊している。最新のテキストは、2019年に発刊した第3版気管支鏡テキストである。

#### **b. 当該領域における国際的な役割**

1. 日本呼吸器内視鏡学会では世界との交流を深めることを目的として、国際委員会を設置している。国際委員会は、気管支鏡を開発した池田茂人先生が設立した国際学会である World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology (WABIP) と協働して、世界の気管支鏡検査の標準化を目指している。

2. 安全対策委員会の、我が国での呼吸器内視鏡の実施の調査結果は、英文の学術論文として海外に発信している。

#### **c. 活動からもたらされる社会的な意義**

進化し続ける呼吸器内視鏡検査において、本学会はその安全で標準的な検査手技を確立し、それを責任もって安全に施行できる医師（専門医）とその指導者たる医師（指導医）の養成と認定を行っている。これにより呼吸器内視鏡検査が我が国において広く安全かつ国際水準で普及することに貢献しているものと自負する。またこの活動を通して得られた知見を国際的に発信することにより、世界における呼吸器内視鏡検査の発展を先導している。

#### **d. 学会運営上留意している点**

日本呼吸器内視鏡学会での情報発信が隔てなく全国に周知されるように、学会本部、支部の絶えない連絡網の構築に留意している。また全国の支部会活動の活性化を図ることにより、全国の気管支鏡専門医の能力の均てん化が担保されるように、各支部での学術集会や実技セミナーの開催に対して、人的、財務的支援を行っている。

## **II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。**

日本呼吸器学会、日本呼吸器外科学会、日本結核・非結核性抗酸菌症学会などと学術集会時の共同企画を行なっている。